

# ふくろう新聞

## 新年おめでとうございます

毎年年末には地域交流会の沖田会長をはじめ、宇城様、平野様に立派な門松を作っていただき、ありがとうございます。おかげさまで無事にお正月を迎えることができました。本年も何卒よろしくお願ひします。



▲互礼会で年男・年女の方々をご紹介します

<発行>  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会  
洲本市中川原中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551

ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

12月21日の明石市議会で、旧優生保護法被害者等尊厳回復及び支援に関する条例が賛成多数で採択されました。この過程で、実施された二度にわたる意見公募に、法人の職員は多数の意見提出をはじめ、明石市在任の被害者小林寛二・喜美子さん夫妻、高尾さん夫妻の裁判支援などに取り組んできました。全国初めてのこの条例が明石市のインクルーシブな町づくりの一層の前進に寄与するでしょう。さらには各自自治体にも広がっていくことを強く願うものです。

## 早くこいこいお正月 〜来年を占う漢字・餅つき〜 12月22日(水)開催

来年を占う漢字は「笑」に決まりました。今年も松栄寺の笹津住職を招き、お披露目となりました。ご住職は「笑」には花のつぼみが開く、花が咲くなど意味があり、皆々様の笑顔が咲く一年となるようお願いを込めて」とお話ししてくださいました。



恒例の年末行事である餅つきを入居者のみなさんはとても楽しみにされています。順番に杵を渡すと力強くぺったんぺったんと良い音が響きます。終わった後に鏡餅と小餅を作り、おやつにぜひごをいただきました。今年も残念ながら入居者と職員のみでの開催でしたが、早く地域交流会をはじめ、多くの方々との交流できる日が待ち遠しいです。  
(生活援助係 酒井英雄)



## 祝★第22回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞



▶ヤマト福祉財団 山内雅喜理事長より  
賞状受賞する大矢暹理事長(中央)

この度、第22回ヤマト福祉財団小倉昌男賞の受賞にあたり、多くの方々からお祝いと励ましをいただきました。本当にありがとうございます。感謝申し上げます。京都ろうあ協会に入職してからこれまでみなさまと共にあったからこそこの受賞です。これからも一緒に歩みを進めてまいりたくよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

聴覚障害者福祉事業協会  
理事長 大矢 暹



# 年男・年女



## 岡田 幸子さん 60歳

- ・食べることが大好き！特に牛肉が大好き！！
- ・淡路島祭りでは、お化粧をして阿波踊りを毎年踊られていました。お化粧するのがうれしそうで、早くコロナが収束して再開されるといいな～
- ・お母さんに会いたい。これからも美味しいもの沢山食べたいです。

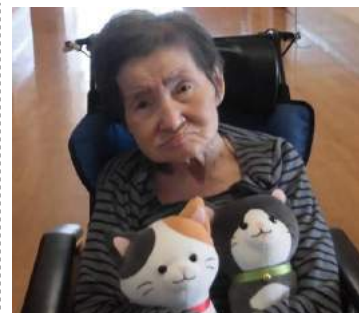


## 中瀬 進さん 84歳

- ・若い頃は左官の仕事をして、良く大阪や神戸へ行っていたので、旅行などへは行けない程、忙しかったです。
- ・雑誌を読むのが好きです！
- ・ふくろうの郷でゆっくり暮らしながら、行事などに参加して楽しみたいですよ！！

## 野田 和美 72歳

- ・家族と一緒に機械を直す仕事をしていました。畑の世話をすることも好きでした。
- ・猫が好きです。家ではたくさんの猫を飼っています。
- ・ふくろうの郷での生活を楽みたいです。あと甘いものをたくさん食べたいです。



新しい趣味としてカメラを始めました。行ったことのない場所・やったことのない事など、NEWなことに挑戦していきたいです。

(ふくろうの郷 岡本洗一)



今年こそはダイエツト!!  
もう、男に間違われないうぞ  
(ふくろうの郷 塩原松ありせ)



一月一日の互礼会では、庄崎職員が獅子舞を披露し、入居者の皆さんと新年を祝いました。  
年男・年女の入居者を紹介してくれた、岡本職員も又、年男という縁起の良いスタートを切る事ができました。  
今年も元気に入居者のみなさんと暮らしぶくりを一緒に考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



# クリスマス会 特別な時間を皆と楽しむ

令和3年12月15日(水)、淡路ふくろうの郷では少し早めのクリスマス会が開かれました。恒例となっているふれあい座によるパフォーマンスは、今回はいつもと少し趣が異なり、入居者参加型の劇が披露されました。入居者が侍に扮してお姫様を助ける演目が行われ、皆さん手を叩いて楽しまれました。



▶侍に扮して刀さばきを披露する  
北宿さん



▲豪華なお弁当にみなさん大満足♪

お昼はサンタとトナカイからのプレゼントとして、お花と特別なお弁当が配られました。内容が豪華な分、刻み食などの対応に時間がかかってしまうなどのトラブルもありましたが、皆さんお刺身や天ぷらに舌鼓を打たれていました。

今年にはコロナ対策の一環として、入居者を午前と午後に分けての開催となりましたが、入居者の案内もスムーズに行われ、それぞれが楽しい一日をすごせたのではないかと思います。

(生活援助係 岡本 洸一)

## 聞こえないとどんな壁があるの？

12月7日(火)安乎小学校にて「聞こえない人とは」をテーマに、聞こえない人は普段どんな生活をしているのか、どういう時に困ることがあるのか等をゲームも交えての授業を4年生10名の生徒たちに行いました。

○×クイズでは、「電話はできない!!」なぜ、そう思うのかを答えてもらいながら、一問ずつ解説していきました。お知らせランプの体験や呼ぶときの方法など、実際に考えて試してもらった時間では気づきや驚きがたくさんあったようです。

質疑応答の際「一番怖いことはなんですか」という質問に「話せる人がいない、情報が入ってこない。孤立してしまうことです。」と答えると、担任の岡田先生から「心理的な壁や物理的な壁は何かを考え、もし小学校が避難所になったらどんな壁があるのか、どんな対応が必要なのかを今後の授業で深めていきたい」とのお話がありました。

短い時間でしたが、生徒たちの学習のお役に立てたことを嬉しく思います。

(生活援助係 川満 幸子)



▶初めて見る福祉機器に興味津々の子どもたち

## 1月・2月 ふくろうの暮らし

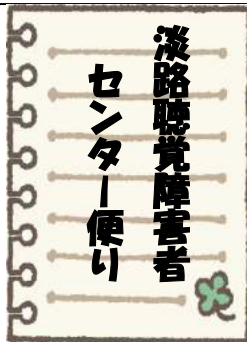
- 1/15(土) とんど焼き
- 1/18(火) 入居者懇談会  
おのころパン販売  
ふくろう大学絵手紙講座
- 1/19(水) ふくろう喫茶
- 1/21(金) 回想法
- 1/26(水) 手話講座
- 1/28(金) 大根まつり  
ふくろう大学料理講座  
〃 書道講座
- 2/ 1(火) ふくろう大学演劇講座
- 2/ 2(水) 誕生会
- 2/ 4(金) おのころパン販売
- 2/ 7(月) ふくろう理髪店

第33回淡路4団体合同研修会

～ 交通事故補償裁判について学ぼう～



12月5日(日) 洲本市総合福祉会館で第33回淡路4団体合同研修会が開かれ、淡路聴覚障害者協会、手話サークル等から42名が参加しました。今回は裁判支援運動をしている大阪聴覚障害者協会から中岡正人氏を講師に招き、お話いただきました。



洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

許されない ろう女児の可能性を不当に低く評価

根底に「優生思想」「医学モデル」時代に逆行

原告のメッセージ

加害者は刑期を終えたら人生をやり直すことができる。加害者が働いていた会社も社名を変えて存続している。

私の娘はどうでしょうか？将来の夢を描き、その道へ進む選択肢や挑戦する機会すべて奪われます。しかも聴覚障害だからという理由で他人から娘の将来を決めつけられ、あの世にいる娘はどうおもっているのでしょうか？(原文より抜粋)

生野聴覚支援学校児童裁判の経過について

2018年2月1日大阪府立生野聴覚支援学校前の交差点で信号待ちをしていた帰宅途中の生徒に、突然暴走してきた重機が突っ込み、当時小学校5年生のろう児童が亡くなり、他に先生、児童合わせて4人が重軽傷を負った。加害者は「難治性てんかん」という脳の病気を隠し、重機の仕事を続けていた。刑事事件で2019年3月危険運転致死傷害罪で懲役7年の判決を言い渡された。

民事事件では、当初、被告側は、聞こえないことを理由に逸失利益(将来得られるはずの収入)を聞こえる女性労働者の40%としていたが、その後「障害者雇用実態調査」の存在が分かり、それを参考に聴覚障害者の平均賃金と主張を変え、金額を聞こえる人の60%に変更。

裁判では、被告側の「聴覚障害者は学力の遅れや就労の難しさがある」との主張に対し、「聴力を補う機器やアプリも進歩し、法律にも障害の有無に関係なく機会や待遇を平等にすることが義務化されていて、聴覚障害を理由にした減額は差別に他ならない」と争われています。

◆支援運動の盛り上がり  
裁判を動かす

大阪聴覚障害者協会は、逸失利益の低さ、裁判官の考えが根底に障害者差別の考え方があり黙視できない問題として、今年6月から大聴協が裁判を支援することとなりました。淡路では3月5日(土)のあ

はじめ、全国から11万3千筆あまりの署名を集め裁判所に提出しました。被告側の主張が習します。

◆障害者権利条約を力に  
共生社会の実現へ

聞こえる人の平均賃金の60%と変わったのは署名運動による世論への訴えが大きく響いたと思われませんが、まだ平等とは言えません。

最近の裁判例では、今年9月に広島高裁で、ITを活用した就労支援機器の普及等の状況から健常者と同様の条件で就労できる社会の実現が見込まれることから、車にはねられた全盲女性の逸失利益を80%とする判決がでている例もあります。

今、全国で強制不妊手術による旧優生保護法の違憲裁判が続いています。両裁判に共通する問題として障害者は一人の人間として扱われない優生思想が根底にあります。

# 新春おめでとうございます 今年もどうぞよろしくお願いたします

中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992



**ノロウイルス対応  
方法について実践**  
12月16日(木)午後5時30  
分から、「嘔吐時の対応方法に  
ついて」をテーマに第3回ふれ  
あいセンター職員研修会を開  
きました。



▲嘔吐物にペーパーを被せ、  
ハイター消毒液を浸す。

職員ひとりずつ手袋やエプ  
ロン・マスクなどを装着し、応  
援を呼んだり、手順に従って処  
理方法を思い出しながら実践  
しました。利用者さんが体調不  
良で嘔吐されることもありま  
す。もし感染症など持つておら  
れる方だった場合は、処理を誤  
ると他の利用者さんや職員へ  
感染を広げてしまいます。  
落ち着いて対応できるよう  
に、今回のような機会を今後も  
作っていききたいです。

(デイサービス 竹内)

## 出前講座 「交通安全」について

12月6日(月)午後1時半か  
ら、ふれあいセンターにて洲本  
市社会福祉協議会の主催で出  
前講座が開催されました。洲本  
警察署所属の講師が、「交通安  
全」を含む身近なトラブルにつ  
いてご自分の病気の話や冗談  
を交えながら、お話をしてくだ  
さいました。



最近、高齢者の事故も増え  
ており、免許更新を取りやめ、  
返納したほうがご本人やご家  
族にとっても安心であるとい  
うことや、電話での詐欺にも注  
意しましょうなど、高齢者にと



って注意すべき内容が盛りだ  
くさんでした。

講座を聞いた利用者さんは  
「近所を歩いていると、地元  
人は道を譲ってくれ先に渡ら  
せてくれるけれど、そうでない  
人だとビュンと走っていく」と  
話され、やはり安全は自分の目  
でしっかりと確かめなければ  
いけないと再認識されたよう  
でした。

(おのころの家支援員 興津)



# 神戸長田ふくろうの杜

〒653-0836 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
電話：078 798 7940  
FAX：078 798 7941

## クリスマス会で盛り上がる 神戸平野ふくろうの樹

神戸平野ふくろうの樹では、開  
所以来初めての行事としてクリ  
スマス会を開催しました。

開催前、入居者会議で希望を出  
し合いました。料理は、寿司とチ  
キンとなり、机に並べられたお寿  
司とオードブルの前に、「すごい



▲「おいしいよ」と笑顔で1枚！



▲2ヶ月前から練習した「炎」

量やなど」と言いながら、完食さ  
れました。

ゲームでは、普段は前に出て  
こない方も誘って、手話と指文  
字でしりとりで。

「初めて人前で披露しました  
が楽しかった。今度は衣装作り  
もしてみたいです。」と今後に期  
待です。

次はお花見に行きたいなど楽  
しい計画も進めていきたいと思  
います。

### ふくろうの杜 ☆食堂一周年記念☆

ふくろうの杜食堂は、12月14  
日に一周年を迎えました。13日

## パート職員募集

### ①地域密着型通所介護

ふくろうの杜デイサービス

職 種：支援員

時 間：9:00~17:00

募集人数：2名 週2回~勤務可能な方

仕事内容：入浴、食事、排泄介助等  
利用者の支援

### ②生活介護

職 種：支援員

時 間：9:00~17:00

募集人数：1~2名 週5日働ける方大歓迎

仕事内容：利用者の支援

### ③看護職員

時 間：9:00~17:00

募集人数：2名 週2回~勤務可能な方

仕事内容：バイタルチェック、服薬確認、  
胃ろうの対応等

※お問い合わせは、神戸長田ふくろうの杜まで

18日に記念イベントとしてハズレ  
なしのくじ引きをしました。  
来店・持ち帰り・出前も含め、た  
くさんの方々にご利用いただい  
ております。  
常連の方は『毎食満足していま  
す。バランスもとれているし、栄養  
も考えられているので、感謝して  
います。』と温かい言葉をかけてい  
だきました。  
無事に一年を迎えられてホッと  
すると同時に、これからもっと皆さ  
んに満足していただけるよう頑張  
ります。

## ふくろうまなびあい文庫

感想お寄せください



竹邊さんとはふくろうの郷で何  
度も会い、ヘルパーの実習でもお世  
話になりました。年々穏やかに会話  
も増えていくのを見てました。  
精神病院が悪いのではなく、当時  
の社会風潮や家族の限界があった  
ことは痛いほどわかりますが、もっ  
と支援できることはなかったのか  
と感じます。最後は人として青春を  
取り戻し全うできて良かったです。  
(赤穂市 中村千穂)